

8/27
(土)有機農業体験イベント 実施報告
有機農業推進プロジェクト&
新規就農プロジェクト土に触れるきっかけを、
たくさんの人に提供したい。

(取材・文・撮影/家入明日実)



上/地域おこし協力隊として、任期後の新規就農を目指す宮脇悠さん(川後田)。2022年3月、南阿蘇村地域おこし協力隊新規就農プロジェクト着任。

下/地域おこし協力隊、農政課所属メンバーが農業体験イベントを企画・運営しています。今回のイベントでは、「植付」と「収穫」の間にある管理作業も、希望者に体験してもらえ内容にしました。

真っ青な空に、夏の名残を感じさせる綿菓子のような雲がぶかぶか。畑に集まった人たちは、みんなとても楽しそう。有機農業体験イベント「秋じゃが植付体験」には、家族連れを中心に10人ほどが参加。実家が農家という人もいれば、ほぼ初めての農業体験という人、大分県からはるる来てくださった人も。村で有機農業を営む笠野真喜さん(栃木)を講師役に、ご家族ごとに地域おこし協力隊が付いて、作業のコツをレクチャーしながら交流を深めました。

畝に入って、まずは種いもを植える穴を掘ります。有機肥料はお好みで。マルチありとなしでは、どんなメリットデメリットがあるのか。話に耳を傾けながら、「ほらこれ、イノシシの足跡」「今日は気持ちのいい天気ですね」「パパ、これ見て!」と、はしゃいだ声が絶えません。

「農家の人たちがどんなふうに作物を育てているのか

体感してもらいたくて」とは、中心となって企画を立ち上げた地域おこし協力隊の宮脇悠さん。「命の大切さに触れたり、収穫の喜びをわかち合ったり。イベントを通して、有機農業に興味を持ってもらえたらうれしいです。特に子どもたちに」。それは、宮脇さんが地域おこし協力隊になった理由のひとつ。そんな宮脇さんの思いに応じて、畑を貸してくれたのが笠野さん。「昔、うちで作った米を子どもに食べさせたら、農薬の味がするって言われてね。それ以来、村の特産品になるような作物を作ろうって考えるようになったんですよ」と、日に焼けた顔に笑みを浮かべます。

スーパーにずらりと並ぶ野菜を眺めても、その作物がどんな環境で、誰の手で、どんな思いを受けて育ったのかを想像することは、だんだんと難しくなっている時代。けれど知るきっかけさえあれば、今日いただく作物の見え方が、少し、変わるかもしれません。

今後の農業体験イベント予定

- 10/ 9(日) 稲刈り体験
- 10/23(日) しょうが収穫体験
- 11/ 6(日) そば収穫体験
- 11/19(土) じゃがいも収穫体験

などなど、計画中です!
詳細は、公式Instagramなどで発信。
お問合せ:農政課
メール/ miraikousha21@gmail.com
電話/ 090-5474-8871



公式Instagram

